

# 浄化の過程と変容的一致

## 1. 感覚の暗夜

- 始まりのしるし
  - a. 神の現存を感じなくなる
  - b. 思い、想像が増えてくる
  - c. 霊的な慰めがなくなる
  - d. 孤独
  - e. 今まで楽しんだことを楽しめなくなる（魅力を感じない、興味がない）

感覚の暗夜ではなく、他の原因によって同じ状態が起こることもあります：

- a. 親戚や友人、仕事などの損失
- b. 環境の変更
- c. 健康、睡眠や食欲に関する問題（変更）
- d. 自分の人生が想像したようなものではないと気が付いたこと
- e. 日常の必要性（休み、遊び、祈り、仕事、友情など）を大事にしないこと
- f. 昔に虐待されたことがあって、その結果やそれに関する感情が意識に浮かんだこと

f. 満足感がないが、沈黙の祈りへの憧れを感じる（沈黙の魅力）

- 目的
  - a. 偽りの自己をなくすること
  - b. 精神的な傷をいやすこと
  - c. 霊（精神）の暗夜のための準備
- 実り
  - a. 謙遜（現実の自分（無意識の動機や価値観など）を知ること）
  - b. 神の概念が沈黙に変わるが、信頼が強まる
  - b. 自由（決断や選択するとき）
  - c. キリストとのより深い関係

## 2. アビラの聖テレジアによる祈りの発展（段階）

- a. 注賦的観想（infused recollection）
- b. 静穏の念禱（prayer of quiet）
- c. 霊的婚約（prayer of union）
- d. 霊的婚姻（prayer of full union）

## 3. 十字架の聖ヨハネによる「隠れた（裏の）階段」

4. 霊（精神）の暗夜（神との一致の始まり）

- 始まりのしるし
  - a. 霊的な体験が（あれば）なくなる
  - b. 失われた霊的な体験を切望する（long for）
- 目的
  - a. 偽りの自己の残りを清めること
  - b. 参与的変容（神とひとつになる交わり）へと導くこと
- 実り
  - a. 霊的な賜物のために「偉い位置」を要求する誘惑からの自由
  - b. 感情の支配からの自由、他人の真の必要性が見出される
  - c. 神の概念の浄化（知り得ない、表現できない、無限）
  - d. 信仰、希望、愛の浄化（神をありのまま、無条件に受け入れる）
  - e. 残りの自己中心的なところを完全になくしたいという望み

5. 参与的変容

- a. 自己同一性（認識）の変化。自分の「わたし」が小さくなって、キリストの「わたしである」が大きくなる。（もはや私ではなく、キリストがわたしの内に生きておられる）
- b. 物や他人や自分自身を所有する必要性がなくなって、その真の美しさ（真の価値）が見出せる。この人にとっては、すべての被造物が神を表すものとなる。
- c. 新しいエネルギー
- d. いつも神に開かれて、神と繋がっているために、神の現存と神の愛の仲介者となる。この人に出会う人が神の現存と愛を体験する。生きた水の泉となる（ヨハ7、38）

6. 霊的な旅において、わたしたちの不安や悩みの最も大きな原因というのは、「起こるべき」ことについてのわたしたちの期待（例：「神はわたしをそんな道に導いてくださるだろう。」「神はわたしにそんな賜物を与えてくださるだろう。」「わたしはそんな体験ができるだろう。」「そんな体験をしなければならぬ。」）と実際に起こっていることについてのわたしたちの解説や解釈であります。

観想の祈りにおいて大事なものは、精神的な体験の中身ではなく、  
この祈りを忠実に続けることです。

キリスト（への愛）が参与的変容への唯一の道なのです。

7. 参与的変容が、キリスト者の霊的な旅の第一部の目的です。その旅の第二部の目的をイエズスが次のように表しています。「わたしと父が一つである」（ヨハ10、30）「父よ、あなたがわたしの内におられ、わたしがあなたの内にいるように、すべての人を一つにしてください。彼らもわたしたちの内にいるようにしてください。」（ヨハ17、21）